

創刊の辞

滝澤 貞夫

大学院修士課程の設置を機に、信州大学教育学部の国語科にも、遅ればせながら我々の学会が結成されることになりました。誠に喜ばしい限りであります。これまでも学生諸君の優れた卒業研究が提出される度に、この成果を発表する機関誌を我々が持っていたらと、私は残念に思ってきました。これは国語科の先生方も皆同様に感じてこられた事であり、ようやくこの教官各位の一致した思いが、学会設立への熱い原動力となった次第です。今後は、本会の結成により、大学院生はもとより学部生の卒業研究がより一層充実し、広く学界の批判に堪え得るような学術的に優れた研究成果が輩出することと期待されます。また、これまで以上に学問研究を通じて、卒業生・在学生と我々教官との交流が図られて行く事と思われれます。特に附属学校の国語関係の先生方との連携もこれまで以上に親密になれる事が期待されます。談話会・講演会・文学散歩・研修旅行・親睦会などの学会行事も年と共に盛んになれば、学生諸君の生活もより一層内容豊かに充実したものとなることでしょう。会員各位の積極的な参加と活動を期待してやみません。信州大学教育学部の前身は、申すまでもありませんが長野師範学校であります。長野師範学校は、他の師範学校には見られない輝かしい実績を残してきました。それは、師範学校を卒業しただけで、全国に名を馳せ、すばらしい仕事をした人物を何人も輩出したということです。「潮音」主宰の歌人太田水穂、ゲシュタルト心理学の権威金原省吾、「アララギ」主宰の島木赤彦、歌

謠史研究で学士院賞に輝く国文学者の高野辰之の名が私にはすぐ浮かびます。このような先輩は、どの師範学校の卒業生の中にも、一人や二人はいるかも知れませんが、でも四人も、それも私の視野が狭く、もっとおられるのかも知れませんが、これだけ数多くの一流の人物の出ている師範学校となると、他に類がないのではないのでしょうか。勿論、卒業後更に上級学校へ進み、名をはした人は大勢おられます。国語の分野だけに限っても、西尾実・坂井衡平・春日政治・上条信山氏を始め何人も何人もおられます。会員諸氏も、これらの先学を目標として、大いに切磋琢磨し合い、研鑽を重ね合おうではありませんか。

さて、この度、平成三年三月、七年の間国語科教育法・国語教材研究を講じてくださいました瀬戸仁教授が定年で御退官になりました。先生は豊かな御経験から生み出された教師としての心構えや教育の機微を穿った御見識を、私共にこれまで折り折り、それも何気ないふうに御教えくださいました。私などはハッと、その都度感銘深くお言葉を味わせていただきました。先生は、学生諸君には、人間命を大切にという「仁ケン宣言」としてお諭しになって来られたことは周知の通りであります。先生は又御着任間もなく、教官も学生も忌憚なく本音で国語教育の問題を語り合える談話会を御計画になりました。実に御多忙の中でこの談話会を何度も、回を重ねて催され、国語の教科の中に、学会結成の環境を作ってこられました。この先生の御学恩を謝し本学における先生の偉大な御業績に感謝の意を表し、この創刊号を先生の御退官記念号とさせていただきます。

最後に、先生の今後益々の御健勝と御活躍を心より御祈念申し上げます次第であります。